

石川県における吸収性夜蛾

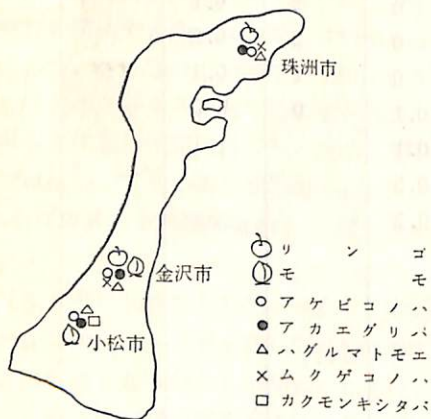
川瀬 英爾¹⁾・稲葉 一男²⁾・干場 昭一³⁾

(¹⁾石川県農業試験場・²⁾石川県農林部農産課・³⁾石川県珠洲農業改良普及所)

北陸地方における果樹栽培は、表日本の暖地帯に比べれば面積的には少ないが、その意慾は極めて旺んであるが、その障害のうち害虫によるものはかなり多い。なかでも吸収性夜蛾は一般に知られていなかっただけに、これからの問題となる。果樹に対する吸収性夜蛾の被害は年々増加しているものようで昭和32年は農研を中心に大学3、県農試4に於てこの夜蛾の研究をはじめることになった。この他に分布と種類について10ヶ所の県農試が調査することになって、筆者等もこのグループに入り、32年の1ヶ年石川県内の吸収性夜蛾について2、3調査をしたので茲に報告する。採集した標本は農業技術研究所服部伊楚子技官に同定して戴いた。茲に厚く深謝する。尙現地調査に当つては千葉大学、野村健一博士が当地を視察されたさい有益な御指導を承つたので茲に深謝する。

〔調査方法並びに調査地〕 夜間8時～9時果樹園において懐中電燈を用い、直接果実に止まっていたものを採集した。調査は主として小松市の桃園と、珠洲市のりんご園で行つたものである。

〔本県に於ける分布並びに種類と被害果樹〕 昭和32年1ヶ年間の調査では第1図に示す如くである。

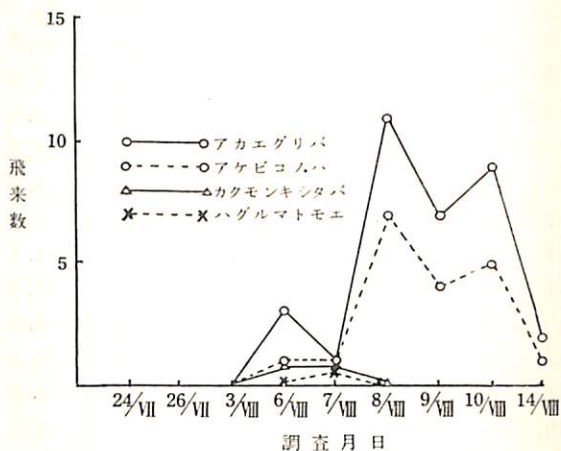


第1図 石川県に於ける吸収性夜蛾の分布並びに種類と被害果樹

〔桃園での夜蛾〕 小松市の桃園に於て7月24日から

8月14日迄の間に9回発生消長を調査した結果は第2図に示す如くである。

調査時間は夜間8時～9時の間で、これによると本県に於て桃園での吸収性夜蛾は32年度ではアケビコノハ、アカエグリバ、ハグルマトモエ、カクモンキシタバの4種類であつた。採集頭数は、アケビコノハ19匹、アカエグリバ3匹、カクモンキシタバ2匹、ハグルマトモエ1匹である。このようにアカエグリバはアケビコノハより



第2図 桃園に於ける吸収性夜蛾の飛来状況

多い。尙調査園に栽植されている桃の種類との被害関係を見ると7月下旬から早生種に被害が現われ始め、中晩生種の収穫期(8月上中旬)に入りその被害は急激に増してくる。

〔リンゴ園の夜蛾〕 リンゴの夜蛾は珠洲市(能登半島の先端)で7月30日と9月13日の夜間調査したものでその結果は7月30日にはアケビコノハ5、アカエグリバ3、ムクゲコノハ2、ハグルマトモエ2、9月13日にはアケビコノハ15、アカエグリバ21、ムクゲコノハ4を採集した。現地の農家ではこの夜蛾の被害が甚大であると報じている如く9月13日の中生種成熟期にはアケビコノハやアカエグリバは7月30日調査より多数採集されている。